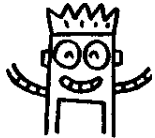


あしかがよしみつ
足利義満は、どんな人だったの



**有力な守護の力を弱め、南朝と北朝を合体させる
などして、室町幕府を安定させた将軍だよ。**

足利義満は1358年に、第2代将軍よしあきら義詮の子として生まれました。1368年に義詮が亡くなると、第3代将軍になりました。

有力な守護の反乱をしずめ、室町幕府を安定させた

義満は、京都の室町に、「花の御所」とよばれる華やかなやしきを建てて、幕府をうつしました。また、幕府の力を人々に印象づけるため、奈良・いつくしま厳島などに旅をしました。さらに、有力な守護の山名氏や大内氏の反乱をしずめ、それまでごたごたしていた室町幕府を、ようやく安定させました。

南北朝を合体させ、引退後は北山の別荘に住んだ

義満は、南朝との話し合いを進め、大覚寺統だいかくじとう（南朝）と持明院統じみょういんとう（北朝）が交代で天皇を出すことりょうとうてつりつ（両統迭立）などを約束して、南朝と北朝を合体することに成功しました。しかし、北朝側が約束を守らなかったため、事実上は、北朝が南朝をきゅうしゅう吸収したことになります。1394年、将軍の職を義持よしもちにゆずり、太政大臣になりました。翌年、太政大臣をやめて、出家しましたが、政治の実権はにぎっていました。1397年には、京都の北山に別荘を建てて住みました。その一部として建てられたのが、きんかく金閣（今の金閣寺）です。

明と貿易し、自分を「日本国王」にした

1402年、明（中国）と正式な外交関係を結び、明との貿易による利益を、独りじめにしました。明の皇帝こうていへの手紙には、自分のことを「日本国王」と書きました。1405年には、ちやうてい朝廷からほうおう法皇のあつかいを受けるようになり、その後も、自分の力が公家の力を上回ることを見せつけたのですが、1408年に亡くなりました。